

その前に・・・【夏休みにしておきたいこと】

「夏休みには、2学期の準備、教材研究等を時間をかけてゆっくり考えたい」と思うけど、なかなかできないもの。もちろん、する方がいいけど、出来なくてもかまわない。でも最低これだけはやってほしいなあというのが、以下のことです。

1. 先生もしっかり遊んでリフレッシュ！

先生も楽しむことが大事です。そんな楽しさの充電が2学期の活力になります。いろんな楽しい体験をして「あー楽しかったなあ、夏休み」と言えるように・・・国内旅行、海外旅行、自転車旅行、キャンプ、ラフティング、ダイビング……。さあ、遊べ！遊べ！遊べ！ 今ならまだ予約は取れる。沖縄に行こう！北海道に行こう！韓国に行こう

2. クラスの子には、残暑見舞いのハガキを書いてやりましょう。

ハガキは夏休みの中盤を過ぎてから出すか、後半に出す方がいい。コメントは必ず自筆で書く！ ハガキは、塗り絵になっていたり、パズルになっていたり、クイズになっていたりするとおもしろい。始業式に持って来てもらうのもいい。

3. 一番しんどい子の家には、休み中に一度は家庭訪問をしてやりましょう。

「近くを通ったから、ちょっと顔を見たいなあと思ったんだ」という「5分間家庭訪問」をしてやる。「おまえの顔見るのが先生うれしいんや」これだけで、2学期の始業式は元気に登校してくる。ただし「宿題は終わったか」は禁句。言わなくてもわかるから。

4. 夏休み中に一回ぐらいいは、自分でお金を出して興味のある研修に行きましょう。

普段なら行けない研修に夏休みを利用して行くといい。教育雑誌の研修会案内によく目を通す先生は◎、そんなものを見たことない先生は×。自腹を切った研修は力となる。

【私の悩みを聞いて・・・】

授業づくり、学級づくり、子ども理解、保護者対応……。そう簡単にはうまくいかないものです。教師の仕事は、悩みだらけ。でもそれが普通です。ただ、それを自分の中に閉じこめておくか、誰かに聞いてもらうかによって、高い壁が、扉にもなるのです。

☆

☆

☆

「目の前にあるのは、壁ではなくチャンスだ。そしてその壁はやがて扉にもなるんだ」

（教え子の上船津暢子さん（現高校教師）が、生徒たちに言った言葉）